

引用・参考文献の書き方ルール

- ・ 引用や参考文献の書き方にはさまざまなバリエーションがあります
- ・ 小論文内で統一した書き方で書いてください
- ・ 書き方の一例をご案内しますので、参考にしてください

(参考)

佐藤 望 編著ほか『アカデミック・スキルズ』第3版(慶應義塾大学出版会,2020年)

参考文献リスト

引用文献と参考文献は本来異なりますが...

本コンテストでは、フォームの都合上、全て参考文献フォームに入力してください！

引用文献

- 本文中で文言などを引用した文献

参考文献

- 本文中で引用していないが、小論文執筆の際に参考にした文献

※引用文献は、文章中に(1)(2)...など通し番号を振って引用箇所が分かるように書いてください

※参考文献は、著者のあいうえお順(またはアルファベット順)に書いてください、同じ著者の異なる文献は発行年の古い順に書きます

※参考文献リストは規定字数に数えません

参考文献フォームに記載する情報①

読み手がもとの文献を特定できる情報を入れてください

【図書】の場合

著者名, 書名, 出版社, 出版年(引用ページ).

例) 福澤諭吉『学問のすゝめ』小室正紀・西川俊作編
(慶應義塾大学出版会, 2009)

【雑誌論文】の場合

著者名, 論題, 掲載雑誌名, 巻・号, 刊行年, 掲載ページ.

例) 川原繁人, 「子ども向け生成AI搭載おしゃべりアプリの危険性について: 言語学的・心理学的・認知科学的観点から」, 『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』56号, 2025年, pp. 31-54

参考文献フォームに記載する情報②

読み手がもとの文献を特定できる情報を入れてください

【Webページ】の場合

著者名(または組織名), ページ名, URL, 参照日

例) 慶應義塾, 小泉信三賞全国高校生小論文コンテスト,
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/tradition/koizumi-contest/>, (参照 2026-04-01).

引用文献の場合、出典を示したい個所の終わりに通し番号を振る(バンクーバー方式)

[本文]

福澤は、「○○×」⁽¹⁾と述べている。…(略)…一方、川原は「○○△□」⁽²⁾と主張している。

↓↓参考文献フォームには次のように書いてください

(1) 福澤諭吉『学問のすゝめ』小室正紀・西川俊作編(慶應義塾大学出版会, 2009) , p. 6

(2) 川原繁人. 「子ども向け生成AI搭載おしゃべりアプリの危険性について: 言語学的・心理学的・認知科学的観点から」, 『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』56号, 2025年, p. 33

※引用ページを忘れずに記載してください

- ・ 著者名, 『書名』, (出版社, 出版年), 引用ページ.
- ・ 著者名, 「論題」, 『掲載雑誌名』(出版年)巻数, 号数: 引用ページ.